

道の駅本庄のリニューアルについて

松江市土整備事務所 維持管理部 管理課 第一係 係長 吉川 眞澄
主任技師 芝原 貴 ○
主事 小笠原 有希

1. はじめに

(1) 取り組みの経緯

近年、国の政策において「道の駅の美化」「ストック効果情報発信」が特に取り上げられている。島根県においても、「道の駅」が道路施設かつ県の施設である認識を高め道の駅の美化等に努めるよう取り組みが行われている。こういった状況の中、松江市土整備事務所でも2つの道の駅を管理しており、道の駅の現状を再度確認してみると開駅以来、長年にわたって手が加えられていないようなところも見受けられた。今回、道の駅としての機能の見直しを行うとともに、さらなる地域活性化を目的とした「道の駅本庄」の改善を実施したためこの取り組みについて紹介する。

(2) 道の駅本庄の沿革

松江市野原町、国道431号沿いに位置し中海や大山を望むことのできる道の駅で2006年に完成し営業を行っている。道の駅本庄は、本庄地区が源義経に仕えたことで知られる豪傑、弁慶の生まれ育った地であることから弁慶にちなんだ展示や、地域の特産の柿、柿ソフトクリームの販売などが特色の道の駅である。施設としては産直市、ファミリーマート、情報コーナー（休憩所）、トイレ、駐車場があり松江市と共同管理を行っている。（写真-1）



写真-1 道の駅本庄の全景

(3) 道の駅の機能

一般的に道の駅には3つの機能が求められる。一つ目は誰もが使用することができるトイレ、駐車場といった休憩機能、2つ目は道路情報や観光情報といった情報を提供する情報発信機能、3つ目は地域振興の促進を目的とする地域との連携機能である。今回のリニューアルではこれらの道の駅の機能を充実させるよう検討を進めてきた。

2. 取り組み内容

(1) 実施方法

松江市土整備事務所に所属する若手を中心にワーキンググループを結成し、現状の課題、それに対する改善策の検討をワーキングを通して実施した。また、道の駅本庄の駅長とも調整を行い利用者のニーズの把握につとめ改善策へ反映させた。なお、今回の改善では産直市、コンビニを除く主に島根県が管理する情報コーナー、トイレ、駐車場を対象とし検討を行った。

(2) ワーキングで抽出された課題及び利用者のニーズ

a) 外観について

- ・ 駐車場から見て何の建物かわからない。(写真-2)
- ・ 情報コーナーの存在を知らなかった。
- ・ 駐車場から見て出入り口がどこかわからない。(写真-3)
- ・ 透けて見える中を見て入っていいのかためらってしまう。
- ・ 物置が見えて乱雑な感じがする。(写真-4)
- ・ バイクをどこにとめていいかわからない。あちこちに止めていて危険だ。(駐輪場がない)



写真-2
情報コーナーの外観



写真-3
情報コーナー入口



写真-4
通路に脇の物置

b) 情報コーナー内について

- ・ 室内に物が多く圧迫感がある。(写真-5、6、7)
- ・ テーブル、イスが多く奥まで入っていけない。
- ・ 掃除用具、除雪用具が置いてあり物置状態になっている。
- ・ 同じパンフレット、チラシが複数に配置されている。
- ・ ほしいパンフレットが探しづらい。
- ・ 室内の導線が考えられていない。



写真-5
情報コーナーの内観



写真-6
情報コーナーの内観

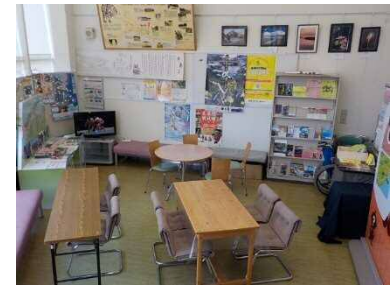


写真-7
情報コーナー内観

c) トイレについて

- ・ ベビーコーナーがない。
- ・ ウォシュレットがついていない。

(3) 課題に対する対策及び新しい取り組み

a) 外観について

何の施設かわからず、また出入り口の位置が分かりづらいことから案内表示を窓ガラス、入り口自動扉に設置し、一目でなにの施設かわかるように、利用者の方が迷わないようにした。(写真-8、9) また、産直市や

ファミリーマートで買い物をした利用者がそのまま情報コーナーに立ち寄ってもらえるように、支柱にも案内表示を設置し利用者の導線を確保した。(写真-10) 物置きとなっていた通路には目隠しカーテンを設置し、利用者の目にとまらないようにした。(写真-11) また、駐車場の安全確保のため駐輪場を設置した。(写真-12) その他には、平成22年度に「神仏の通り」という道路事業において景観にすぐれた場所ということでビュースポットを設置しているが、今回改良として新たにビュースポットの案内標識とセルフカメラスタンドを設置し、若い層が立ち寄りよう考えた。(写真-13)



写真-8
案内表示の設置状況



写真-9
案内表示の設置状況



写真-10
案内表示の設置状況



写真-11
目隠しの設置状況



写真-12
駐輪場の設置状況



写真-13
ビュースポット設置状況

b) 情報コーナー内について

物が多く圧迫観のあった室内は、必要最小限の物のみを再配置し、入りやすい雰囲気とし圧迫感のない開放的な空間にした。(写真14、15、16) また、情報コーナーは扇形をしており非常に狭いため、ガラス張りの窓際にカウンターテーブルを設置することでスペースを有効に活用し広々とした空間をつくった。(写真-17) このカウンターテーブルとイスは「地域との連携」との観点から松江工業高校に制作を依頼しデザインから生徒に行ってもらい製作したものである。もう一つ「地域との連携」という観点では新たに掲示板を設けて、地元の小学校である本庄小学校の児童のみなさんが授業で作成された「弁慶かるた」をお借りし展示している。掲示物は定期的に交換していき、地域の方々にも足を運んでいただけるように工夫した。(写真-18) 「情報発信機能」という観点からは、大型モニターを新たに設置し、道路情報として当事務所の事業の整備効果（ストック効果）をPRする動画を作成、公共事業への理解を深めてもらう取り組みを行った。(写真-18) また、大型モニターでは松江工業高校の生徒によってカウンターテーブルを制作する過程を撮影、編集したものを動画で放映している。その他にも、回転式の本棚を設置し、道路情報誌や絵本などさまざま本を備え付け、迎えを待つ児童や、学生の方々が気軽に立ち寄ってもらえるような取り組みを行った。乱雑に置かれていたパンフレットについては分野ごとに仕分けを行い、「観光情報」や「イベント情報」といったポップアップを行いすぐにほしい情報がどこにあるかわかるようにした。



写真-14
室内の様子



写真-15
室内の様子



写真-16
室内の様子



写真-17
高校生が製作したテーブルとイス



写真-18
小学校児童の作品



写真-19
モニターでの放映状況

c) トイレについて

ベビーコーナーについては子育て支援の観点から、高速道路及び国が整備した道の駅については全箇所を整備する方針が国土交通省から示されている。島根県内の道の駅については、現時点でベビーコーナーが設置された箇所はないが、道の駅本庄ではそうしたニーズの高まりを反映させるためにベビーコーナーを女子トイレ内に設置した。(写真-19、20) また、洋式便器とウォシュレット完備がスタンダードになりつつあるが、道の駅本庄にはまだ設置されていなかったため、時期を前倒し、それぞれ設置した。



写真-20
ベビーコーナー設置状況



写真-21
ベビーコーナー設置状況

3. おわりに

増え続ける社会インフラの中には長年使われていないようなものも多く見受けられる。今後もそういったものを有効に使っていくために、どうすれば便利になるか、利用者に使ってもらえるか随時見直しを行っていき、地域の活性化のために取り組んでいく必要がある。

道の駅の機能を充実させるのはもちろんですが、今回の取り組みを行うにあたり高校、小学校の方々にもご協力いただきました。多方面の方々にも関わりを持っていただくことで話題性のある取り組みとなり、そういった意味でも賑わいの創出につながっていくのではないかと考えます。